

ユーモアスピーチ船橋

2019 (R1) 年 9 月 12 日発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

161 回船橋ユーモアスピーチ

2019 年 9 月 12 日 (木)

3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「我慢」、「奇遇」

ロングスピーチ

入江 清之さん「船橋に縁のある五輪馬術大
障害金メダリスト・西 竹一中佐」
稲葉 勝弘さん「カラオケ あれこれ」

主催：NPOシニア大楽
ユーモアスピーチ共和国・船橋支部
支 部 長：長嶋秀治 043-261-5832
発 行 者：長嶋秀治
編集&事務局：町田雅和
267-0066 千葉市緑区あすみが丘 5-
26-7 T/F 043-294-2911
mac555new@ybb.ne.jp
参加費 500 円 (入会金 1000 円)
開催日と場所
毎月第②木曜日 14:00~16:30
会場「ニッセイ・ライフプラザ船橋」
船橋市湊町 2-1-1 日生船橋ビル 1F

8 月 8 日の参加者：入江、稲葉、佐藤、工藤、川田、鈴木、飯野、山田、はらだま、佐野、辻内、佐々木、大塚、田谷、中久木、松永、山中、早瀬、町田、長嶋 20 名

ロングスピーチ

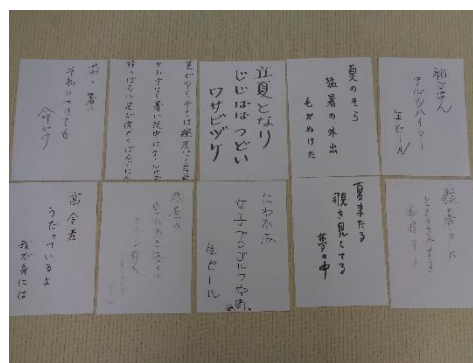
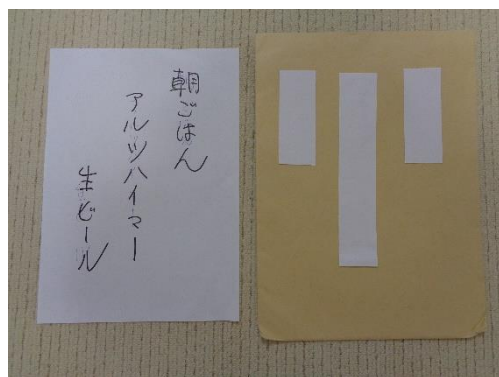
実験 「川柳」

辻内 京子さま

実験川柳のやり方

全員が 3 枚の紙に、五七五の言葉をランダムに書き、一度回収して、再度バラバラに配り、隣の席の人と協力して、何とか川柳らしく組み立てる！

1 位に選ばれた川柳は、「朝ごはん アルツハイマー 生ビール」でした。



ロングスピーチ

温故 (千) 新 印藩沼掘割藩請

大塚 親雄さま

- ① 享保 (1724 年) 新田開発 …… 米の増産と税収
染谷源右衛門 4 月に源衛門祭り
 - ② 天明 (1780 年) 新田開発と水運
老中 田沼意次 名主の平左衛門、治郎兵衛。
 - ③ 天保 (1843 年) 水害防止と水運
老中 水野忠邦 幕府財政難地方大名に工事
◎ 秋月藩 ◎ 鳥取藩 ◎ 沼津藩 ◎ 貝淵藩 ◎ 庄内藩
- 1、沼津藩 (5 万石) 平戸村～横戸村 8km
 - 2、庄内藩 (14 万石) 横戸村～柏井村 2km

3、鳥取藩 (32 万石) 柏井村～花島村 1km

4、貝淵藩 (5 万石) 花島村～畑村 4km

5、秋月藩 (5 万石) 畑村～検見川 2km

◎庄内人夫『庄内大服部村百姓仁兵衛の墓』があり、「下総印旛沼古堀筋普請御用御手伝人の墓なり天保十四癸卯年七月一三日羽州庄内を出て同じ九月二」「一四日病死して爰に葬る 後の人憐れみてこれを発くことなかれ法名観阿道哲士」雇い人夫を使わず山形から遠路人夫を送りこんだ庄内藩。武士 4 人、百姓 19 人が異郷で命を落した。

3 分間スピーチダイジェスト テーマ「楽しみ」「蝉時雨」

中久木 一乗：「楽しみ」

私は「終わることが楽しみ」。内容も大事だが、とにかく終わることが第一。素晴らしい仕事も終わらなくては楽しくない。

仲間のグループの会合のお世話や、記録(集)の製作などを引き受け、面倒でもやり終えて、他人に評価してもらえると楽しい。評価されるのは 多少とも他の人の心に沁み込んで 喜ばれたから！ 即ち他の人にシミを残す。他人のシミ、他のシミが、これが私の「タノシミ」。

子どもの頃から、人並みにコイン集めや切手集めなどもやったが、最大の欠点は終わりが無いこと。終わりの無いのは達成感がなく、楽しくないので 70 歳でやめた。

その中で続いているのは、安物の「亀の人形や絵」などの収集。特に好きではないが、ウサギ年生まれの、気が弱く、逃げ脚が早く、油断する私への反省。と いうよりも、団体旅行先の土産屋で見ると困った時に、テーマとして亀の人形や絵の安物を買うことにしたのです。困った時の亀だのみですが、今では見るのが楽しみです。

山中 昇：「憲法」

日本国憲法成立時の事実を共有したい(ビデオ、公式文書などで残っている)

■1946 年の憲法制定時、国会で、唯一、日本共産党が強硬に反対した。

理由は、①天皇制(1 条)は民主国家にあるまじき制度だ、②9 条第 2 項の「自衛権否定」は国民の生命・財産・安全を守るという国家の基本を否定するものであり受け入れられない

■憲法草案を作った GHQ のケーディス大佐がインタビューでこう答えている。9 条の自衛権否定は絶対に受け入れられないと抗議を受けることを予想したが、そうした動きがなかったため、今の 9 条になった

共産党は「一貫して護憲政党だ」と明白な嘘をつき、9 条も不毛の議論(神学論争)が続いている

工藤 文夫：「楽しみ」

男の「楽しみ」。昔だったら、「飲む」「打つ」「買う」。ところが今の私は、「薬を飲む」「注射を打つ」「紙オムツを買う」でしょうか？ とにかく今の「楽しみ」は毎朝 TV の「大リーグ中継」。それも、ロサンゼルス・エンジェルスの大谷選手が出場しているゲームです。今までになかった、爽やかさ、軽快さ、気持ちよさ、快感すら感じさせる、異次元の選手です。ゲームを見ていると、日本の野球ではない豪快さ、パワーにも魅せられて、久しぶりの「楽しみ」を味わうことが、出来ています。フレ・フレ「大谷さん」

町田 雅和：「楽しみ」

落語とマジックが趣味ですが、ちょっとした関連グッズを作って楽しんでいます。落語では「笑点の大喜利」や「落語のまくら」から小話を拾い集め、小話集を作成しています。現在約 200 話をまとめ小冊子にしました。マジックは漫画のキャラクターをカードに貼ったりして手作りでマジックの道具を作っています。パソコンの機能が向上したお蔭で、自宅で簡単な工作タイムを楽しんでいます。

松永成三郎：「私の楽しみと蝉時雨の話」

田谷さんから孫と遊ぶ楽しみの話が出たついでに私事について触れます。私の孫は 8 人いますが、上は大学生 2 人と今年卒業した研修医(初孫で女性)で、もう一緒に遊んでくれる間柄ではありません。しかも初孫の専攻希望は産婦人科と聞いて、これも初めてのひ孫を抱く楽しみも当分お預けになりそうです。蝉時雨と言えば、74 年前の終戦の日を思い出します。軍国少年だった私は、日本の敗戦が信じられずフラフラとある神社の境内に彷徨い出ましたが、そこで頭から降るように聞こえた蝉時雨で我に返った次第です。

田谷 正明：「楽しみ」

三人娘が片付き、老いた家内との暮らしですから“二人で静かに夕餉を囲む時間”が何よりの楽しみです、と言いたいところですが、やはり小学 5 年の孫との二人の旅が何よりの楽しみです。先週、尾瀬に行ってニッコウキスゲが咲き乱れる湿原や檜枝岐村で夢のような時間を過ごしました。でも孫と一緒に遊んでくれるのもあと 1、2 年のこと。それからの「楽しみ」を何にしようかなと悩んでいます。

飯野 望：「楽しみ」

選挙応援を聞くのが楽しみです。
皆さんは、憲法改正について賛成ですか？、反対ですか？
私は○▽◇です。このマイク届いてますか？
沖縄基地はもちろん○▽◇です。
また医療費も 43 兆を超えるのは、厚生労働▽○◇です。
パンにハムハサムダ。アンヨンハセヨ!ベツノサンカン Chorlonハイジャンクムジ
ョンウンベイチョウシュノウカイダン 3 回目、コイズミクリステル!!

早瀬 君子：「蝉時雨」

たくさんの蝉が一斉に鳴き出すとうるさくて鬱陶しく感じるが、それを“蝉時雨”と表現すると、何とも情緒豊かな響きに聞こえてくる。そしてこの季節、私には“蝉時雨”を耳にすると忘れ難い青春の思いでが蘇る。

社会人になって務めた会社は新橋の芝公園のすぐ傍にあり、勤めて間もなく、同じ経理課の男性との恋が芽生えた。昭和 40 年代の当時はまだ居酒屋などはなく、名曲喫茶や映画、公園散歩やハイキングなどがデートの定番、今の若者たちの恋愛とは全く異なる“純愛物語”のようで、社内でも噂にならないように気を付けていた。丁度八月の今頃、「お昼休みに愛宕神社に行こう」と皆に気付かれないように彼の誘い。愛宕神社までを往復するには結構ギリギリの時間・・・言葉を交わさずに小走りに歩き、目の前に聳え立つあの急峻な階段を躊躇なく登り始めた。86 段の階段を必死で登り切った境内には人影もなく、広い砂利庭は夏の日差しに照り返り、けたたましい蝉時雨が二人を囲った。何十年も経った今も尚、蝉時雨はあの日の光景を彷彿とさせる。「蝉時雨 青春の恋 彷彿と」

山田 正國：「蝉時雨」

小生の家から 100M 足らず、小さなお宮さんがあり、最寄り駅に行くにはこのお宮さんを通り抜けて行くのが近道参道の両側には樹木が生い茂り 例年ならばセミが鳴いているはずですが、今年はまだセミの声をきかない。

アブラゼミのじじじじい 熊蟬のしゅわシュワ それに日暮蟬のみーみん みーん 一斉に鳴けばまさに蝉しぐれ、蝉のオーケストラである。日暮蟬のみーん、みーんと鳴くが、見えてますよ、飛び立つときにおしっこ掛けられないように

入江 清之：「蝉時雨」

時雨は日本海側を中心に初冬にかけて降る雨で、目まぐるしく変わる通り雨のこと。京都では時雨のことを北時雨と云うが、大阪にも大阪しぐれと云う都はるみの歌があるが、大阪には時雨など降らないので、これは北時雨のパクリだ。一方、蝉時雨は多くの蝉が鳴いているさまを時雨の降る音にたとえたものだが、蝉時雨と云うと作家藤澤周平の蝉時雨を思い出す人もいることでしょう。これは藩の勢力争いで父を失った少年の成長と彼を慕う武家の娘との淡い恋物語だが、20 年振りに会った二人は懐かしく言葉を交わし、肌を合わせた。彼はこのあと出家する彼女と別れ、後悔と満足が入り混じったまま蝉時雨が響く中、馬を走らせたと云う話。

長嶋 秀治：「蝉時雨」

芭蕉の「奥の細道」に「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」がある。この蝉は何蝉か？ 斎藤茂吉がアブラゼミであると 1926 年 9 月号の雑誌「改造」に発表した。これをきっかけに文学論争が起こった。小宮豊隆はニイニイゼミであると反論した。結論は 1932 年 6 月に茂吉が誤りを認め決着した。同じ山形県の羽黒山で聞いたヒグラシの合唱が忘れられない。羽黒山は入口の随神門から頂上まで距離は 2 km 石段がなんと 2446 段ある。ある年の夏、澄んだフルートの音のようなヒグラシの鳴き声を耳にして何と美しい音色かと魅了された。蝉時雨はヒグラシに限る。中腹にある茶屋でビールを飲みながらまたゆっくりと聞いてみたい。



予告：10 月 「船橋ユーモアスピーチの会」

10 月 10 日 (木) 14 時 ニッセイプラザ 1 階 会議室

ロングスピーチ 中久木 一乗さん「入れ歯 の 歯無し」

石渡 巧さん 「古典落語」

スピーチテーマ 「笑顔」 「手紙」